

# 岐阜新聞真学塾

出題 蜚雪ゼミナール 岐南校・松田真

## 問題【理科】

図のA～Dは日本付近の季節の天気図です。次の問いに答えましょう。

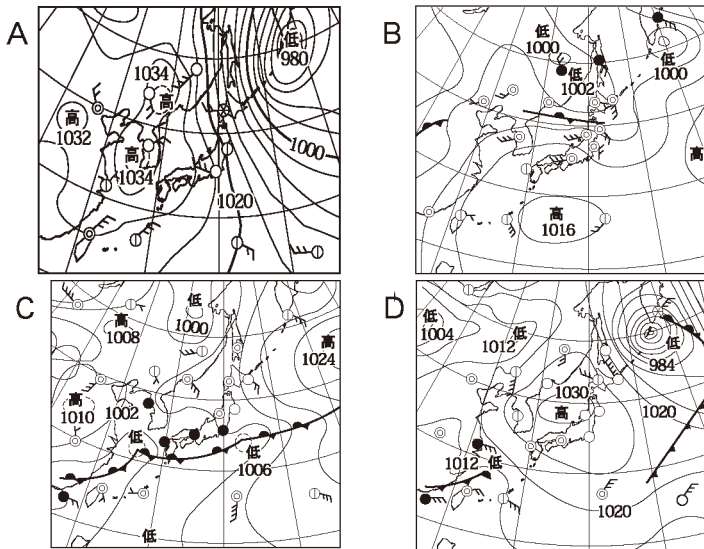
(1) AからDの季節はそれぞれ何か、ア～エの記号で答えましょう。

ア 春・秋 イ 夏 ウ 冬 エ 梅雨

(2) A図の気圧配置を何と言いますか。

(3) B図の太平洋上にある気団は何ですか。

(4) D図の日本の上にある高気圧は何ですか。



## 豆知識

## 雑学コラム

## 天気図で見る季節

今回は中2の天気「季節」からの出題です。

天気図から季節を読み取る方法を覚えて下さい。

ズバリ高気圧を探す!!です。日本の周りには四つの気団が発生し、すべて高気圧です。特に夏と冬は大きな気団が発生します。夏は太平洋上に小笠原気団、冬は大陸上にシベリア気団が発生します。そこから日本に向かって風が吹くので、夏は南から、冬は北から風が吹きます。季節によって吹く風だから季節風と言います。♪北風ぴいふう吹いている(童謡)。♪南風受けながら 生まれたままの姿で(シャネルズ)。シャネルズは知らないか!? 授業では歌って説明します。

Cの天気図は停滞前線で梅雨か秋雨ですね。上下にある高気圧が発達すると停滞前線が動き、天気は良くなります。ではDの天気図の日本の上にある高気圧は? これは中国の揚子江気団の一部が偏西風に乗って一部がちぎれて移動する高気圧で、移動性高気圧と言います。日本の上には高気圧が発生しません。前回勉強したように前後に低気圧を連れてくるので天気は良く変わります。女心と秋の空ですね。

夏と冬はテストによく出ます! 比較して覚えましょう。

夏⇒小笠原高気圧が発達。南風。気圧配置は南高北低になるので、等圧線は左右に間隔が広いので、風は弱い。

冬⇒シベリア高気圧が発達。北西風。気圧配置は西高東低になるので、等圧線は上下に間隔が狭いので、風は強い。

## 【解答】

(1) Aウ Bイ C Dア (2) 西高東低 (3) 小笠原気団 (4) 移動性高気圧